

会議録

会議の名称	社会教育委員の会議（8月定例会）
開催日時	令和4年8月26日（金）午後2時から午後4時まで
開催場所	田無第二庁舎3階会議室
出席者	委員：川原議長、小松副議長、伊尻委員、勝野委員、河野委員、黒羽委員、坂内委員 攝賀委員、高橋委員、長谷川委員、松本委員、宮本委員 事務局：吉田社会教育課長、神保社会教育係長、齋藤主事（社会教育主事）
議題	(1) 地域活動の報告について (2) 提言について
配付資料	
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録

会議内容

●議題について

議題（1）各委員による地域活動について

各委員より説明

議題（2）提言について

○事務局：前回の会議で、「提言の構成（章立て）」についてご検討いただいた。参考資料3は、前回の検討結果を分類し整理したものを、「章立ての整理案」として示したものである。章立ての整理案については、前回の会議で正副議長、事務局に一任となった。

また、「章立ての整理案」をもとに章立て案を作成し、それをいったん提言の章立てとして進めさせていただくということになった。

今回の会議では、「章立ての整理案」と、提言の文章化の進め方について検討いただきたい。

○議長：まず、「章立ての整理案」について意見等あるか。

○委員：「はじめに」の部分は、提言の経緯、テーマ設定の背景が書かれるのが一般的であり、大体1ページ内におさまることが多い。今回、示していただいた章立て案は、「はじめに」の部分が長いので、工夫が必要ではないか。

○議長：「はじめに」の部分を2分割して、提言の経緯などを前半に盛り込み、後半に全体の背景などを説明するようなイメージでよろしいか。

○委員：それで構わない。

○議長：今回の検討は、確定ではなく、ある程度の方向性を決めるという主旨である。人材の話、世代の話、学校と社会教育行政の話をするという3つの大きな柱が入っているということによろしいかどうかについて、意見を頂戴したい。

○委員：章立て案の「学校と社会教育行政」という項目に違和感がある。今まで、社会教育行政のあり方や地域学校協働活動について提言をしており、それを踏まえ、今回の提言テーマは人材に絞り込んでいる。今回の章立て案は絞り込んだテーマからあまりにも広がりすぎているのではないか。「はじめに」の部分もこれだけ多くのことを述べようとすると、何を言いたいのかが分からなくなるのではないか。

○議長：提言テーマとしては人材と地域活性化が主軸であるが、かなり広い論点が入っているということで、もう少し絞り込むのはいかがだろうかという提案をいただいたが、意見等あるか。

○委員：「はじめに」の部分は非常に細かすぎる。例えば、地域学校協働活動については、「1はじめに（1）現状と課題」、「4学校と社会教育行政（1）学校と社会教育」の両方にある。「4学校と社会教育行政」では、地域学校協働活動の内容について書かれると思うが、「1はじめに」の方では、何を述べるのか。人材が大きなテーマであるので、地域学校協働活動の人材の育成や発掘について述べていくと思うので、「1はじめに」で述べる必要はいらなないように感じる。

○議長：両委員の方からご指摘いただいた通り、「はじめに」と後ろで述べる内容とでの中に重複している項目は削除をし、整理していく方向性でご提案頂いたが、よろしいか。

一同同意

○議長：それでは、「1はじめに」の中に理由、経緯などを入れ、地域学校協働活動の話は後ろの方で触れて、「はじめに」では触れないという方向で考えていきたい。また、先程、意見をいただいた「4学校と社会教育行政」は、そのまま柱として章立てするような形でよろしいかどうかを改めて確認したい。

○委員：「4学校と社会教育行政」については必要のある部分については、提言の中に盛り込むが、章立てをして述べるべきことなのかが気になる。行政に関する話も人材に関する話の中でまとめていく方が良いのではないか。

○委員：賛成である。地域学校協働活動は、既に提言している。その提言を受けて、地域学校協働活動等の取り組みをして、そこで人材というのがとても大事であることを再確認できた。その内容を「2人材」の中でまとめれば、改めて地域学校協働活動の内容を「4学校と社会教育行政」で章立てする必要があるのかと考える。

さらに、「4学校と社会教育行政」の「中学校における部活動の地域移行」はあまりにもテーマが大きく、国の動向も関わってくるので、今回の提言に含むのは難しいのではないか。前回の提言を受けて、人材が大事であり、それぞれの世代に働きかけていく必要があるという話を中心となり、行政として何ができるのかを最後にまとめる形であれば分かりやすいのではないか。

○委員：社会教育課では、生涯学習人材登録情報事業を行っている。それがどのように活用されていくかという意味でも社会教育行政に関する話はあると良いと考える。学校と社会教育については今回の提言では含まなくても良いと考える。また、「1はじめに」の「全員参加の地域づくりを目指して（提言）の見直し」は、以前、社会教育委員の会議から提言が出されたものであり、参考になると考え挙げたが、あえて節にしなくても良い。

○議長：今回の章立て案については、前回出た意見を全て盛り込んだものなので、長大なものになっている。そのため不要な部分は削っていくという作業が今回必要になるかと思う。頂いた意見を整理すると、1つ目は、「はじめに」をもう少しシンプルにして、今回の提言

の意義を簡単にまとめていくということ。2つ目は4章「学校と社会教育行政」を場合によっては削除をし、人材関係の話の中で関わりそうな項目の中に入れるか、4章を残してシンプルにしていくか。この2点について意見を頂戴したい。

- 委員：4章を無くして人材の話の中に盛り込む案に賛成する。例えば、社会教育主事、社会教育士の資格は、他の取得奨励等を絡め、その資格を持っていることが担い手育成にあたるので、人材の項目の中で述べていくことも可能であると考えます。
- 委員：この会は、社会教育委員の会議なので、「4学校と社会教育行政」にあるような社会教育の役割や社会教育行政の内容は触れるべきではないか。
- 委員：提言テーマに立ち返ると、「地域の活性化に向けた人材の育成」である。地域の活性化とはどういう姿なのかを知りたい。そして人材の育成とは、どういう人材を求めているのか、目指す人材像はどのようなものなのかを定めなければならないと考える。人材の育成について考えたときに、「2人材」と「3世代」という分け方に違和感がある。
- 委員：「4学校と社会教育行政」の地域学校協働活動、部活動の地域移行、社会教育主事に関しても、人が関わる話なので、全て人材の話に盛り込めると思う。「3世代」については、章立てが決まれば、それぞれについて話し合うことになると思うが、「2人材」を見たときに、どのように発掘するか、研修をどうするかというのも、世代によって内容が異なると思うので、「2人材」の各項目に関して、「3世代」と併せて話し合うと議論が深まるのではないかと。逆に、「2人材」と「3世代」を分けてしまうと議論にずれが生じるのではないかと。同じ理由で「3世代」も若い世代とシニア世代だけで話し合わない方が良く考える。
- 議長：まず、「4学校と社会教育行政」は削除の方向でよろしいか。

一同同意

- 議長：では、「4学校と社会教育行政」は、削除をして、関係する項目に入れていくという方向性で一旦進めさせていただく。  
続いて「2人材」と「3世代」を見直していく必要があるのではないかと意見をいただいた。
- 委員：人材について話し合うときも、項目によって、世代の分け方が変わってくると考える。例えばICT機器だと、ICT機器の得意な世代と苦手な世代という議論になるかと思うので、先に年代を分けてしまうと逆に議論がしづらいのではないかと。項目によっては3つぐらいの世代に分けても良いだろうし、世代分けが不要かもしれない。また、「2人材」「3世代」と単に分けるのではなく、世代を意識しながら人材の発掘や研修、その他のことを話し合えば良いと考える。
- 委員：シニア世代は分かりやすいが、若い世代はどこまでをイメージするのか。世代間を繋いでいくことを社会教育の中でどのように成立させていくかを提言の中で述べていきたい。
- 委員：このテーマができたときには、何に困っていたのか、どうして地域が十分に活性化してなかったのか、持続可能な地域づくりにしていくためにはどうしたら良いか、そこに立ち返りながら、章立てを考える必要がある。
- 委員：人材は大きなテーマなので「2人材」の中にある、研修や外部人材の活用についても1つの章になると考える。また世代に関してもキーワードであると思うので、世代を繋ぐ場という

のも1つの章として挙げられそうだ。

- 委員：人材と世代を同じ章にまとめて、最後に社会行政の役割をまとめにしても良いと考える。シンプルに言いたいことだけを伝えた方がわかりやすい。
- 委員：テーマに沿って人材と地域の活性化についての2本柱をしっかりとまとめていきたい。世代については人材の中に包含できると考える。
- 議長：頂いた意見を参考に正副議長と事務局で案出しをさせていただき、9月定例会で章立て案を議論をして固め、執筆分担や進め方についても考える方向性でよいか。

#### 一同同意

- 議長：続いて研修については、当初9月から10月の実施を予定していた。視察の内容等について意見があればお願いしたい。
- 議長：ないようであれば西東京の事例や取り組みについて知りたいという意見があったので、西東京市の事例を熟知していらっしゃる小松副議長に一度お話を伺い、西東京市はどのような地域の活性化の取り組みをしているかなどを研修に入れてみてはいかがかだろうか。
- 委員：NPOなどの団体に来ていただくのか、それとも「ゆめこらぼ」の取り組みについて話を伺うのか。
- 議長：後者を想定していた。人と人の繋ぎ方の話は、かなり参考になると思うので、団体の活動内容の話も合わせて伺えれば一番理想的だが、まず、どのようにコーディネートしてその場を作り出しているかなどのお話を伺えれば良いと考える。  
また、毎月の定例会で地域活動について各委員から紹介していただいているので、小松副議長の他にも、お話頂ければ参考になるのではないかと。
- 委員：「ゆめこらぼ」が人材育成の推進を積極的に進めているわけではないが、事業の中で市民活動や人材育成の視点での事業が必ず組み込まれているので、その例は伝えられると思う。
- 委員：内容を少し詰めた上で更にその中で必要なものを研修した方が良いのではないかと。
- 委員：研修はできるだけ早めに実施した方が良いのではないかと。研修から学び得た上で議論を始めた方が効果的であると考えている。
- 議長：まず9月定例会では「ゆめこらぼ」のコーディネートの話を伺う研修を実施し、もう1つを後半に実施できれよい。9月の研修次第で後半を実施しなくても大丈夫となることも考えられる。
- 委員：議論をしていかないと分からないこともあると思うので、先程のお話のように、議論を進めて、もう少し知識を深めないといけないという場面で、研修をやることで有意義な研修になるのではないかと。
- 委員：研修をまず受けてみて、その中から課題や、掘り下げたいものが出てくるように感じる。短時間でも先に研修を受けることで、テーマがもう少し絞れるのではないかと。
- 委員：これからの提言に資するものであれば、研修は早い方が良いと考える。

○議長：次回の会議では研修として小松副議長に講師をしていただきつつ、実際に活動している河野委員、長谷川委員、松本委員に活動の中身について話していただく。後に学びたい分野に関する活動を行っている団体等に聞きたいことを整理した上で、研修を受けて、提言に生かす。章立て案の検討、執筆の進め方や分担等についても進めていきたい。

## その他

次回会議について

令和4年9月30日（金）午後2時

場所 田無第二庁舎 3階会議室